

18. 横穴式石室

古墳時代の後半になると、朝鮮半島の影響を受けて横穴式石室という埋葬施設が出現しました。それまでは竪穴式石室のように、一人だけを埋葬する施設がおもに営まれていました。密閉してしまうので、一度埋葬すると二度とお墓を開けることはありません。いっぽう横穴式石室は遺体を納める玄室と呼ばれる大きな部屋と、玄室へとつながる羨道と呼ばれる通路とで構成されています。大きな特徴は、石室の入口を塞ぐ石を取り外すことで、何度でも中へ出入りできることです。ひとつのお墓に複数の遺体を次々に埋葬する追葬が可能なつくりなのです。

足元にある一須賀 O-5号墳では、石棺の隣に木の板を留めた釘が残っていて、ここに木棺があったことがわかります。追葬がおこなわれたことがわかりますね。

当時の人びとは、追葬の際に石室へ出入りすることで以前に埋葬した人の遺骸を目にすることもあったでしょう。こうした経験は、死後の世界についての考え方に大きな変化をもたらしたと考えられます。

ちなみに古事記や日本書紀には、イザナギノミコトが、黄泉国へ死んだイザナミノミコトを訪ねる神話が描かれていますが、これは横穴式石室でおこなわれていたさまざまな儀礼を反映した説話とみられます。